AIST

National Institute of
Advanced Industrial Science and Technology
Recruiting Book

01

軽く、強く、固い。世界中のフライトを夢の素材が支える。

鉄よりも軽く、強いPAN系炭素繊維は、今から半世紀以上前に産総研が開発。現在ではスポーツ用具から最新鋭大型旅客機まで、その用途は広がり続けている。

02

地球の未来のために次世代エネルギーを生み出す。

地球規模で広がるエネルギー・環境問題の解決に向け、新たなエネルギーの実用化を推進。風力・太陽光・地熱などの再生可能エネルギー実証実験や、省エネルギー技術も開発。

技術を社会へ

日本最大×最先端の研究所から、技術と社会をつなぐ

創り出す新しい技術は、未来をもっと豊かなものにする。
産総研が取り組む研究は、社会を大きく変える可能性に満ちています。

03

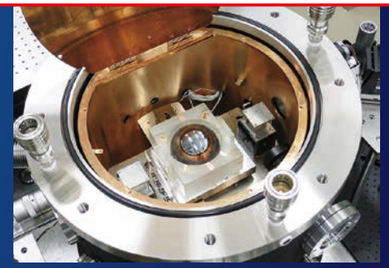
ライフサイエンスに革新を。このロボットの誕生が、研究の概念を変える。

従来の産業用ロボットとは異なり、複雑な工程も人間以上の精度で迅速にこなす。
研究者をベンチワークから解放し、バイオ研究の生産性を向上。研究現場のインフラを劇的に変えていく。

04

長さ・時間・質量単位系を司る日本唯一の機関。

研究機関や産業界で用いられる計測・評価技術をより確かなものとするため、国の機関として、計量標準を整備。また世界レベルの高精度な計測技術の開発によって、日本社会の知的基盤を進化させていく。



05

地質調査から災害軽減へ。暮らしに安心を届ける。

日本で唯一の地質調査のナショナルセンターとして、国土の地質情報の調査・整備から災害軽減への利用、地下資源開発に至るまで、日本の安全安心な社会基盤の構築を担っている。

総合職の2つのミッションと7つの業務

研究者を支え、技術を社会へ送り出す

研究者が成果を生み出しやすい環境や制度を整備する「研究者を支える」仕事と、研究所内に留まらず外部と連携したり、研究成果を発信する「技術を社会へ送り出す」仕事があります。

産学官・国際連携

外部機関との連携を推進

外部連携を幅広く展開する産総研で、国、自治体、大学、民間企業などの外部機関との連携の接点となる部署です。契約業務や、連携を促進するための制度の立案、外部に出向き新規案件を開拓する業務まで幅広くあります。

広報

研究成果を多くの人に届ける

技術を社会へ届けるため、産総研の活動をステークホルダーにわかりやすく・正しく伝えます。マスコミ対応やWEBサイト、展示施設運営、イベント企画など様々なツールを通して産総研をPRします。

知的財産管理

成果の活用のための知財戦略

研究者が生み出した研究成果の特許出願や管理のほか、民間企業との知財交渉を行います。また知財戦略の立案や知財制度の設計も行います。

経営企画

組織の戦略を企画・運営する

経営層とやり取りしながら研究所全体の経営方針・組織体制の企画立案と、大規模な産総研を横断する各種業務の総合的な調整を行います。調整業務には外部機関も含め、あらゆる部署との連携が求められます。

研究ユニット支援

研究者に必要な全てをサポート

担当の研究ユニットに対し、研究現場の最も近くで予算管理から安全管理、広報活動、人事などあらゆることをサポートする、研究者にとってなくてはならない存在です。

施設・安全管理

日本最大の研究所のインフラ整備

研究現場では、高性能な設備や特殊な薬品など、高度な施設・環境の整備が求められます。施設・安全・情報インフラなど様々な面から研究者によりよい研究環境を提供します。

総務

組織が動く基盤をつくる

人事や労務、予算管理や調達、所内規程の整備など、組織を動かす核となる「人」「モノ」「お金」の管理や「ルール」づくりを担う産総研の基盤部署です。

研修について

入所時研修	半年	2年目	3～5年目	
入所時研修 産総研職員心得の習得～ 社会の中で社会のために	**入所時フォローアップ研修** 産総研職員心得の習得～ 組織への貢献	**地域センター研修** 地域センターの役割と 現場を学ぶ	**若手職員研修** 持続的自己開発に向けて	**エキスパート研修** ・成果活用人材育成研修 ・総務研修（財務会計、人事） ・広報研修 ・スキルアップ・自己研修 ・外部研修 ・派遣研修（海外） ・外国語学校及び資格取得講座補助制度

メンター・メンティ制度
皆さんの悩みを親身になって聞いてくれたり、アドバイスをくれる先輩たちがいます。

OJTプログラム制度
配属先の先輩が責任を持って指導・育成をします。

INTERVIEW

研究の世界と社会の「通訳」を務める。

産総研の広報では、新しい研究成果が出た際に、マスコミへのプレスリリース・取材対応、常設展示施設の企画運営、WebやSNS・動画での発信、科学イベントへの出展など様々な活動を通して技術を社会へ伝えています。その中で私が担当しているのが出版物の制作で、産総研の研究分野を紹介する総合パンフレットの編集などを行っています。難解な研究内容や専門用語を誰にでも分かりやすい表現に直しつつも、日本を代表する公的機関として研究内容の正確性を損なわないよう心がけています。研究者にはない観点での表現やレイアウトに工夫を凝らし、出来上がった誌面を見た研究者から感謝されたときは非常にうれしいですね。今後も内容だけでなく、イベントなどでも配布しやすい簡易版パンフレットの制作などにより、研究者の情報発信を促す企画をしたいと思っています。こうした広報活動を通して、産総研の知名度を今以上に高めることが目標。それが結果として、産総研の研究成果と日本の科学技術の発展への貢献に繋がっていますから。

育児との両立も可能な職場

子育て支援は、制度以上に周囲の理解が重要。その点、産総研は皆がフォローをしてくれるので、ママになっても働きやすい職場です。

仲 さやか
企画本部　広報サービス室　出版グループ
2008年度入所（工学部・大学院卒）

杉山 智徳
イノベーション推進本部　技術マーケティング室
2005年度入所（文学部卒）

企業のニーズと、研究シーズを結びつける。

産総研の中で生まれる先端技術を民間企業などでより活用してもらうことが、技術マーケティング室の役割です。企業のニーズに対して、最適な技術シーズを売り込んでいくいわば“営業”のような仕事ともいえますね。ただ、単に企業と研究のマッチングを行うだけでなく、時にはニーズに沿って研究内容をより最適化させるため、研究者に提案をするコーディネーターのような役割も求められます。それ以外にも産総研の営業活動を活性化させるためのイベントや、産総研の技術をより輩出するための仕組み作りといった企画立案ができることも面白みにつながっています。先日も農業に関する研究テーマのコンサルティングに関わったかと思えば、金融機関と技術の事業化を行う協定にも携わりました。また連携先も日本を代表するような大企業から地域を支える中小企業まであります。研究所は民間企業とスピード感やカルチャーが違うので実際連携に至るまで一筋縄ではいきませんが、実際にお互いが協力していい成果が出ると、とても達成感を覚えますね。

フランス留学で学んだチームワーク

社内制度を利用して、フランスに1年半留学。財務や経営戦略、組織論などを学び、業務に活かしています。

INTERVIEW

研究者と国や企業の間に立ち、研究プロジェクトを“契約”というカタチに。

プロジェクト支援室では国や自治体、企業が公募する研究プロジェクトに対する応募可否の判断や、外部から依頼を受けて研究を行う受託研究の契約などを担当しています。その中で、私は主にエネルギー・環境分野に関する民間企業からの受託研究に携わっています。企業への契約内容の説明から契約書の条文調整や予算の執行ルールの確認、計画変更に伴う調整などを行い、研究終了時には研究者と共に成果報告書の作成まで・・・このように研究者が研究に没頭できるよう、契約業務や連携の調整を支援します。研究内容を決定する際、研究者は自身の興味のある方向へと話を進めがちなところがあるので、そこを軌道修正しながら企業と研究者の間に立ち、研究内容の着地点を探るのも私の仕事です。ですから契約手続の事務業務といっても研究のことを理解し、何が課題となっているのかを見極められることが重要です。こうした経験を生かし、将来的にはビジネスモデル構築や、研究者と企業を繋ぐイノベーションコーディネータの業務を行いたいと思っています。

研究者と積極的に関わることが重要

オン・オフを問わず、研究者との交流が多く、研究に触れる機会も多いので非常に面白い。研究系職員と事務系職員の関係が良好なのも産総研の特徴です。

米山 秀彌
産学官・国際連携推進部　プロジェクト支援室
2011年度入所（理学部・大学院卒）

研究に最も近い場所で、研究者の全てを支えるやりがい。

入所1年目にイノベーション推進企画室で総括業務を担当し、2年目の現在は研究支援グループで電子光技術研究部門を担当しています。ここでは、経理や人事、安全管理など、研究をあらゆる観点から幅広くサポートしています。部門長と二人三脚で部門の運営管理や予算の管理を行ったり、研究者からの問い合わせに対応したりとまさに“研究職に最も近い場所にいる総合職”と言えます。部門付の秘書のような業務もありますが、そこから一歩踏み込んで、事務的な側面から研究部門に対する提言を行うことが求められます。非常に業務の幅が広い職種であるため、2年目の私にとっては研究者から寄せられる一つ一つの質問が学びの材料であり、毎日が苦労の連続ですが、課題を解決できた時の研究者からの「ありがとう」の一言が非常にうれしくて、私のモチベーションになっています。研究ユニット支援担当に聞けばなんでも解決する！と研究者から頼られる存在になることを目指して日々勉強しています。今後は、研究活動の支援によって、より担当部門のアピールをしていきたいと考えています。

1年目の業務が社会人としての基礎に

1年目に所属した部署で本部全体を知る機会を得ました。その経験とやり遂げたという自信が社会人としての基礎になったと感じています。

中谷 結衣
第二研究業務推進部　研究ユニット支援（電子光技術研究部門担当）
2016年度入所（社会情報学部卒）

LOCATION

広大な敷地に、最先端設備と豊かな自然が同居する働きやすい職場。

日本有数のオープンイノベーション拠点として最先端の設備を保有

基礎研究から製品化・実用化までを担う研究所として、全国の企業や大学・研究機関などと連携し、世界最高水準の研究を行っています。

全国に拠点を展開

産総研では、契約職員・外部研究員を含めると約1万人の職員が働いており、つくば本部のほか全国9つの拠点で、地域の特色に応じた研究を展開しています。

カフェやコンビニもあり、春には花見もできる自然豊かな場所

所内は自然が多く四季折々の風景を楽しめるほか、食堂やカフェ・コンビニなど便利な施設も揃っています。

サイエンス・スクエアつくば

地質標本館

カフェテラス

いちょう並木

日本を代表する研究機関が集まったサイエンスの街「つくば」

National Institute of
Advanced Industrial Science and Technology

産総研
国立研究開発法人 産業技術総合研究所